

前世療法をした体験した仲間たちの感動

子育て中の主婦の仲間たちの要望に
こたえて始まった「自分探し」の
ためのワークショップが口コミで
広がって、やがて数百人の人たちが
参加することに。その体験を綴った
『生まれ変わりセラピー』という本の
著者、花田美穂さんに過去世退行に
による癒しについてお聞きしました。

取材協力◎花田美穂さん
(ヒプノセラピスト)
取材・構成◎本誌編集部



Profile

はなだみほ。神奈川県出身。企業秘書、中学校講師、各種研修講師、福祉事務所ケースワーカーなどを経て、94年、米国ヒプノセラピー学院の会長A.M.クラズナー博士のもとでヒプノセラピーを学び、全米催眠療法協会の認定を受ける。日本ヒーラー・カウンセラー学院(学院長/師岡孝次医学博士)を卒業。また、米国のドン・ディンクメイヤー博士が開発し、世界で約300万人の親が受講している子育てと自己発見のためのプログラム「STEP」および「STEP/ティーン」を、リーダーとして500名以上に紹介。STEP修了者のネットワーク「KIDSあい」、異業種交流を目的とした「BOB俱楽部」の代表も務めている。

地球の体験は、魂の成長するための劇場のようなもの。

花田さんは主婦業のかたわら、ドン・ディンクメイヤー博士によって開発された、子育てと自己発見のためのプログラム「STEP」を、リーダーとしてこれまで50人近くの子育て中の母親に紹介してきました。現在は、STEP修了者のネットワーク「KIDSあい」の代表も務めています。

さらに入間の意識の領域に関心をもつて、ヒプノセラピー(催眠)をはじめとして、さまざまな講座やセミナーにも参加してきました。5年ほど前、KIDSあいの仲間たちから、花田さんが学んできたことを自分たちにも体験させてほしいと頼まれたそうです。そこで親しい友人と話し合って、ヒプノセラピーやりラクゼーションなどを取り入れた1クール6回のワークショップを行うことになりました。そのワークショップは「風が

花田さんは、魂は仲間同士で互いの役割を演じながら「グループ転生」を繰り返すのではないかと考えているそうです。地球とは、そんな魂の仲間たちがともに学び、成長するための「魂の劇場」のようなもの。



見えてくる」と名づけられました。当初は、仲間うちだけの「お試しワーク」のノリで始まつたこのワークショップ(以下、「風のワーク」と略)はKIDSあいのメンバーを中心に口コミで広がり、ふとした縁から「このワークの体験を本にまとめてみないか」という話が舞い込みました。

その本、「生まれ変わりセラピー」には、夫婦間の気持ちのすれ違いや子育ての悩み、不倫、幼い頃の虐待の経験といった、さまざまな問題を抱える女性たちが登場しています。

彼女たちが風のワーク(とりわけヒプノセラピーによる過去世退行の体験)を経て、現在の問題や過去の重圧から解放されて、明るさとたくましさを獲得していくエピソードが紹介されています。今回は、そんな花田さんに過去世退行という体験について、より具体的にお聞きしてみました。

——そもそも、花田さんが過去世というものに興味を抱いたきっかけは何だったのですか?

「私自身が子育てをしてきた中で、子どもに一生懸命教えているのに全然覚えてくれなかつたりする一

私たちの魂は
その肉体や環境を
あえて選んで
生まれてくる



過去世を探ることで

今の人間関係に変化が!

花田さんの本には、さまざまなもの問題を抱える女性たちが、過去世退行の体験を経て明るさとましさを獲得していくエピソードが紹介されています。花粉症やアトピーなどの症状が治ったとしても、自分自身は『それは私のことだ』とリアルに感じられると思いますよ。

本当の自分を知るには
どれだけ“多くの自分”を見つけるかが鍵になります。

MANY LIVES
with SOULMATES

方で、とくに何も教えていないのに簡単にできてしまつたりするのが不思議だったんです。科学的に説明すれば、そのような情報すべて子どもの遺伝子に組み込まれていたということなのでしょう。けれども問題なのはその遺伝子情報が、なぜ、いま・ここで活性化したかということですね。私は子どもたちの魂が、あえて、

世をかいだ見ると、いう体验については、そこで見たものが、本当に自分の過去世なのか」というもの問題になると思うのですが?「風のワークでは10人の参加者が異なる過去世退行の体验をします。そして、実際に体验すれば、わかるはずです。たとえ1億人の人が『それは君じゃない!』と言つたとしても、自分自身は『それは私のことだ』とリアルに感じられると思いますよ。」

過去世退行の体验をどうとらえるかは、あくまでワークの参加者にゆだねられているのですね。

「ええ。もつとも、その体验が潜在意識が生み出した映像のようなものだつたとしても、なぜそのようなドラマを作り出せたのかといえば、やはり、どこかで類似の体验をしてきたからだと思うんですね。生まれ変わりというのは、誰もが300回くらいは経験してい

るという話ですしね…」

「生まれ変わりセラピー」の中に、Aさんという女性のエピソードが紹介されています。都会育ちで好奇心が強く社交的なAさんに対して、夫は生真面目で妙なところに口うるさいタイプでした。

結婚して十数年経ち、「子育て暮らしていくのだろうか」という漠然とした不安を抱き始めた頃、ヒプノセラピーによる過去世退行

そのような質質をもつた肉体や環境を選んで生まれてきたとしか考えられない気がしたのです。」

「仮に、その過去世の体验が作り話であつたとしても、その情报が今その人に役立つものであれば、『自分の過去世だつたことにしよう』と決めてしまつても良いのではないか?」

私は風のワークに参加する人たちには、自分が見たこと、感じしたこと、意味づけする力を強化してもらいたいんです。たとえば、ある過去世のビジョンを見たあとで、「あれは、あまりしつくり行かなかったことにしよう」というの

OKだと思つんです。」



花田さんは“カルマ”というものを「新しい人生を楽しむために魂のスーツケースに詰め込んできた旅の荷物のようなもの」と表現しています。過去世退行の体验は、その荷物を整理するためにも大いに役立つようです。

ち、お姫様や家族の安全を身を呈して守っている門番がいました。彼女はその後ろ姿を見ただけで、それが現在の夫であることを直感しました。その体験を経て、Aさんの中に「自分は今生でも夫に守ってもらっていたのだ」という感謝の思いが芽生え、夫婦の関係はより自然なものへと変わつていったのです。

本の中では明かされていませんが、実はこのエピソードは、花田さん自身の体験なのだとそうです。

——その他にも、花田さん、自分

人をライオンの餌にしてしまうような厳格な女官頭をしていたイメージが浮かんだこともあります。」——そのような過去一世退行の体験を繰り返すと、いまの自分という存在が、さまざまなかつての人生が統合されたものだという実感が湧いてくるものなのでしょうか。

「そうですね。よく、「本当の自分を知りたい」と訴えてくる参加者がいるんですけど、本当の自分を知るには『どれだけ多くの自分を見つけられるか』ということが鍵になるのだと思いますね。

たいていの人がこの地上で300回以上もの転生を体験しているそうです。いまの自分が無数の過去世・来世とともにがつていると考えると、人生が不思議といふとおもく思えてきませんか。



『生まれ変わりセラピー
～前世療法で自分と出会う～』
花田美穂／著 大和出版／刊
本体価格1,400円+税

96年から始まったワークショップ「風が見えてくる」。そこに参加した女性たちの体験談を軸に、ヒプノセラピーと過去世退行の興味深いエピソードや、花田さん自身の過去世觀・人生觀が綴られています。「阿呆になろう」「トンズラ・モード」といった軽妙なく花田さん語錄も散りばめられ、肩の力を抜いて読めるスピリチュアルなドキュメンタリーです。

過去世退行で
すべては自分の
選択であるという
実感が湧いてくる

の過去世退行の体験を二紹介いただけますか？

「いろいろあるんですが、興味深いところでは魔女狩りにあつて火あぶりにされた過去世のビジョンを見たことがあります。

私は昔から肌が弱くて、皮膚科の先生も驚くぐらいのアトピーだったこともあるのですが、その過去のビジョンを見た後では不思議と症状が軽くなつたんです。

精神世界やニユーエイジの考
方で、「すべては自分自身で選択
している」といったものがありま
す。そうした考え方に対して、私
も以前は、『今、主婦をやってい
る私には飯炊き以外に道がないの
に何が選択なのよ!』と納得がい
かないこともあります(笑)。

けれども、数多くの過去世退行
の体験を通して気づいたのです
私の魂は、今生ではこのカラダを
選んで生まれてきたのだと。

たとえば今生の私は、夕方のス

「パーマーケットで半額になつた食品をゲットすることに、ものすごい喜びを感じたりしてゐる(笑)。かつてはお姫様や魔女や女官頭だったかもしれない私の魂は、今回の人生ではそんなあたたりまえの幸せを経験したくて生まれて来たのかもしれません!」

花田さんは本の中で、「魂はグループで転生していくものなので、はないか」と語っています。いわゆるソウルメイトと呼ばれるもののは、この「グループ転生」を繰り

返す魂の仲間をさすものと考へて、いらっしゃるそうです。魂の仲間たちは時と場所によつて、それぞれの役割をえながら、互いにさらなる成長を目指して生まれ変わりを繰り返す——。

地球とは、そのようにグループ転生してくる魂たちが果てしないミュージカルを繰り広げている、「魂の劇場」のようなものだと、花田さんはおっしゃっていました。

わたしの 『生まれ変わりセラピー』 体験！

～ワークショップ 参加者の声～

後藤智子さん（日本語教師）

風のワークに参加したのは、花田さんの本を読んで興味を持ったからです。過去世退行で、最初に見たのは江戸時代の京都あたりの裕福な商人の娘。家の隣が敵しくて好きなことをさせてもらえないその子は、私に「自分で好きで生きられるのに何が不満なの？」と訴えていたみたい。次に見たのはネイティブアメリカンの戦士の姿。運動神経が抜群に良かったために最前線で戦い、早死にしてしまったようです。

今生で私が運動が苦手なのは、その反動かも(笑)。過去世退行を経験して、いろんな人生があって楽しいと思いました。いつか未来の私が、いまの私を過去世退行で見たときに「いい人生だったじゃない」と言われるよう、この人生を大切に生きたいと思いました。

木戸小夜さん（主婦）

風のワークで過去世退行をして見えたのは、昔のアラビアの女盗賊の姿でした。その女盗賊には好きな男性がいたのですが、長老の命令でその人の家を襲撃しなければならないことに。襲撃の最中に、彼女は最愛の人にお腹を刺されて死んでしまいます。「これで良かったのだ」と思いながら…。

私は以前から帝王切開したときの傷跡が痛むことがあり、そのワークの直後もひどく痛んだのですが、翌日以降、不思議と痛みがなくなりました。また、二人の息子のうち、長男との間で自分でも良くわからない緊張感があったのですが、ワークの後、とても自然につき合えるようになったのです。もしかしたら長男は、過去世での最愛の人の生まれ変わりなのかもしれません。



ワークショップ 「風が見えてくる」のご紹介

「風が見えてくる」は、週1回2時間、全6週をかけて行われるく自分探しのためのワークショップ。これまで主に東京及び神奈川の公共施設などを使って開催してきました。本の出版後、読者からの要望で同じプログラムを週末2日で体験するクラスも開講。人数が10名程度集まれば遠隔地への出張ワークも可能だそうです。受講料は1クール50,000円。資料をご希望の方は、必ず返信用切手80円分を同封の上、下記まで封書にてご請求ください。

〒247-0062 鎌倉市山ノ内527 鈴木方
BOB俱楽部連絡事務所